

岐阜大会 課題研究「運動部活動顧問を取り巻く現状と課題：東海4県の顧問意識調査から見えること」

愛知県高等学校体育連盟研究部 山内俊幸 愛知県 愛知県立佐屋高等学校

### 1 はじめに

運動部活動は、教育活動の一環として生徒の健全育成や学校の活性化に重要な役割を果たしてきた。特に、顧問の熱意ある指導は、生徒の技術の習得や体力の養成にとどまらず社会性をも育て、有為な人材を世に送り出す原動力となっている。こうした効果がある一方、教育改革による部活動を取り巻く環境の変化、外部指導者の活用や社会体育への移行、指導現場における体罰など様々な今日的課題が生じてきた。

そこで愛知県高体連では、平成19年度に県内運動部顧問を対象に行った「運動部活動顧問の意識調査」と同様の調査を、今回に至っては、東海4県に拡大して再実施し、愛知県内の5年間における経年変化並びに東海ブロック全体の実態を調査し、比較検討することとした。そしてそこから見えてくる課題（特に顧問が抱える課題）を浮き彫りにして、その解決策を考え提言していくことで、次代を担う若手指導者の成長の一助とすることを研究の目的とした。

### 2 研究計画

年	月	関係会議ほか
H19	6.7	愛知県内高体連加盟校にアンケート用紙配布
	8	アンケート用紙回収とともにデータの集計・分析
	10	アンケート集計・分析・結果報告
	11	東海ブロック委員長会議において結果報告 愛知県内での結果を紹介し、各県にも分析・考察を依頼
H24	1	平成25年度岐阜大会での課題発表を目指し準備開始
	2	アンケート内容の検討
	6.7	東海4県高体連加盟校にアンケート用紙配布
	8	第一学習社によるアンケート用紙回収とともにデータの集計・分析
	10	アンケート集計 本県研究部担当によるデータ分析開始
	11	東海ブロック委員長会議において分析結果を配布 愛知県での分析を紹介し各県にも分析考察を依頼 以後合計10回の会議を経て発表に至る

### 3 調査方法

東海地区高体連加盟校を対象に、以下(次ページ)の調査項目によるアンケートへの協力を依頼した。

東海4県の平成24年度高体連加盟状況は以下の通り。なお、アンケートの回収・データの集計については、外部業者（第一学習社：本社、広島市西区横川新町）に処理を依頼し行った。

県名	全日制	定通制	合計	生徒数	加盟人数	加盟率
愛知県	222	45	267	203,109	84,818	41.8%
三重県	77	18	95	55,522	18,651	33.6%
岐阜県	80	17	97	59,707	22,448	38.2%
静岡県	143	26	169	103,757	41,758	40.2%



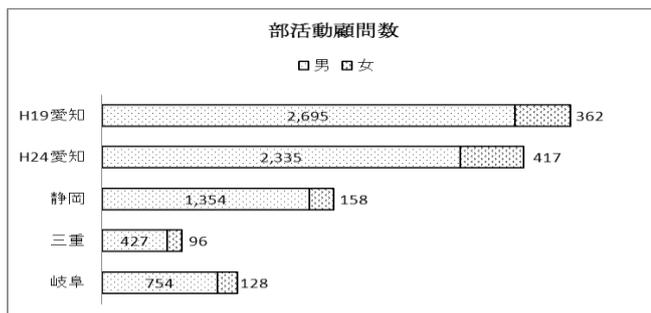
<アンケート回収結果>

	参加校	回収率	回収人数		参加校	回収率	回収人数
H19 愛知県	190/221	86.0%	3,062	H24 愛知県	187/221	84.6%	2,754
				静岡県	128/150	85.3%	1,515
				三重県	72/99	72.7%	882
				岐阜県	43/78	55.1%	523

今回の調査では、東海地区（4 県）430 校 5,674 名の顧問の先生方にご協力いただくことができた。

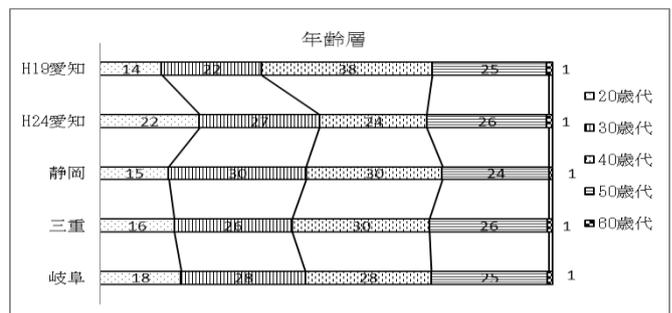
4 調査結果の分析と考察

(1) 部活動顧問数 (人)



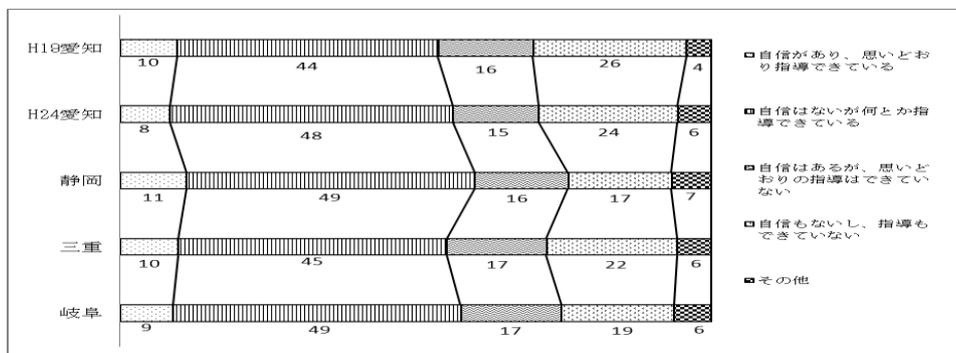
どの県も、女性教員が全体の約 10%強であった。

(2) 年齢層 (%) [質問 4]



ここ 5 年で愛知県の 40 歳代の数が半減した。各県とも各年代ほぼ同じ割合になりつつある。半数が若い世代に移行→若い顧問が抱える問題点や課題があるのではないかと推測される。

(3) 部活動の指導に関して (指導力) [質問 15]

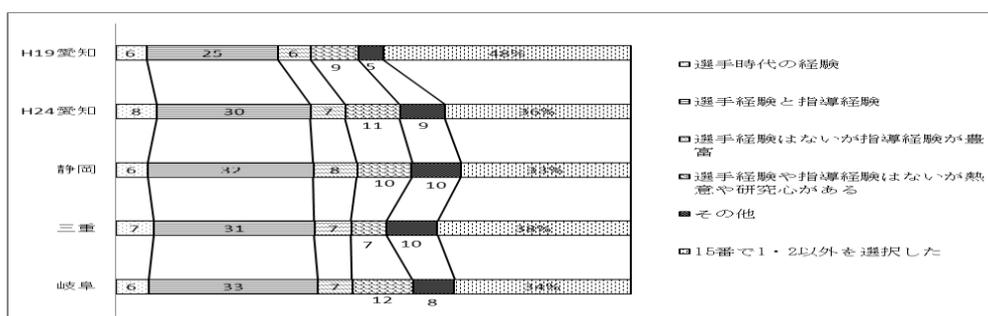


自信を持って、指導している（できている）顧問は全体の 1 割であり、大半が何かしらの悩みを抱えながら、指導をしていることがうかがえる。

しかしながら、現在指導している部活動の競技歴を

回答するアンケートでは 6 割の顧問が競技歴ありと答えていることから、たとえ競技歴のあった部活動顧問であっても、指導に関して悩みを抱えていることがうかがえる。

(4) 部活を指導「できている」理由



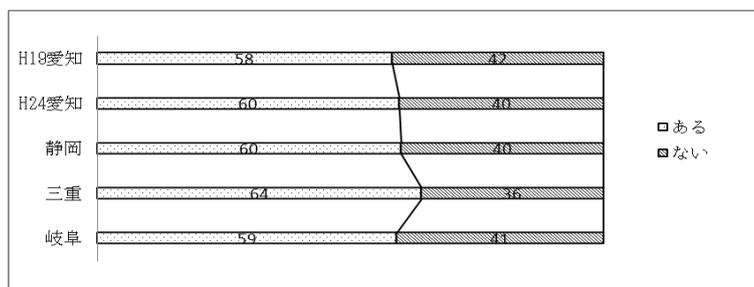
[質問 15 の回答①自信があり思いどおりに指導できている②自信はないがなんとか指導できている、の集計]

自分自身の選手経験によるものが指導の根底にあ

ることがうかがえる。選手・指導の経験の有無が生徒を指導していく上での基盤になっていることは確かなことである。しかし部活動指導は、選手経験等の有無に関係なく日々生徒と対峙しなければならないことも多い。

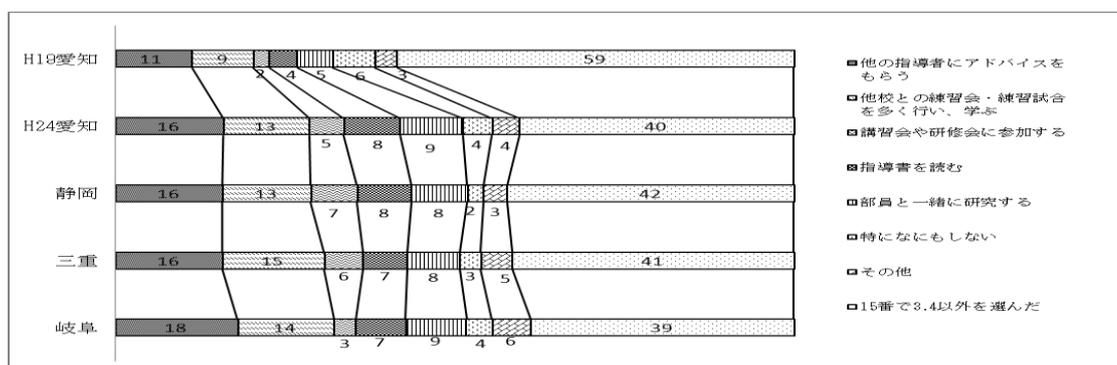
したがって競技歴や指導経験を持たない指導者をどのように擁護しつつ、指導者として育成する体制を整えるかが大きな課題でもある。

参考：競技歴の有無 [質問 9]

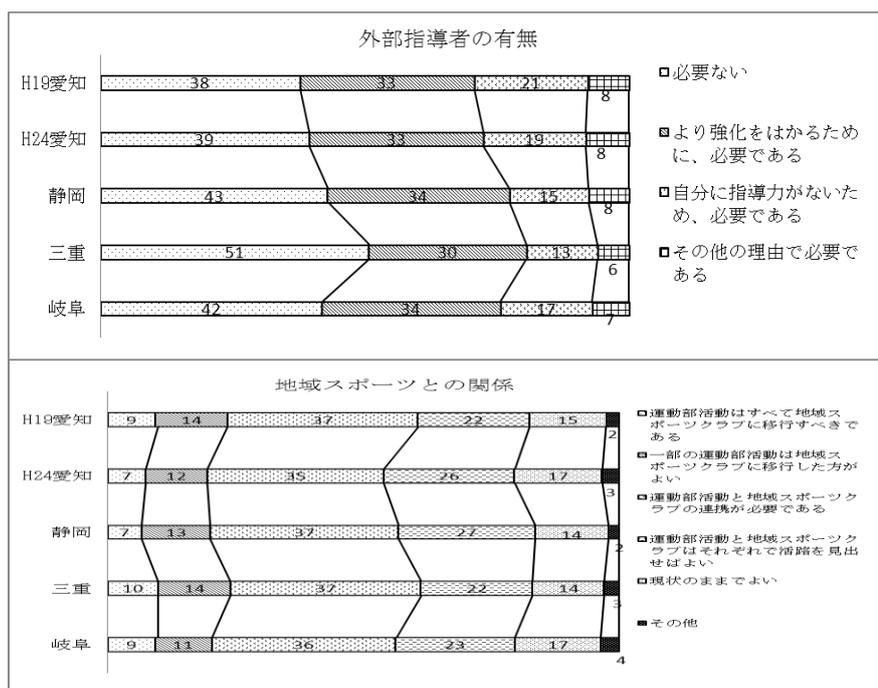


### (5) 指導「できていない」ときの解決法

[質問 15 の回答③自信はあるが思いどおりの指導はできていない④自信もないし指導もできていない、の集計]



参考：外部指導者の有無 [質問 19]・地域スポーツとの関係 [質問 24]



競技の特性によって解決方法は異なるものの、技術の向上・意識、またそれらをどのようにして生徒に還元させていくか、多くの顧問が日々思い悩んでいることが考察される。自信を持って指導できるか否かということより、指導上の課題が生じた際、その解決に向けて何をよりどころに求めているのかという観点での対策を講じていく必要もある。

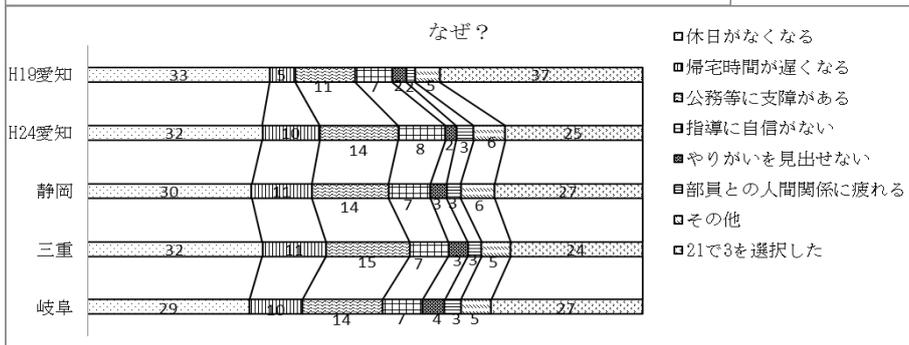
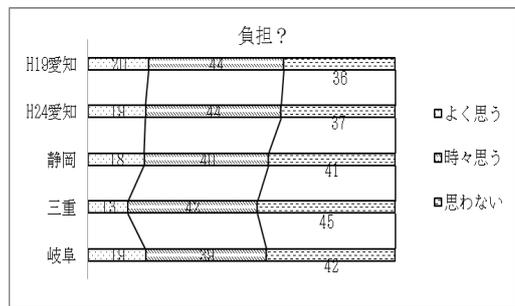
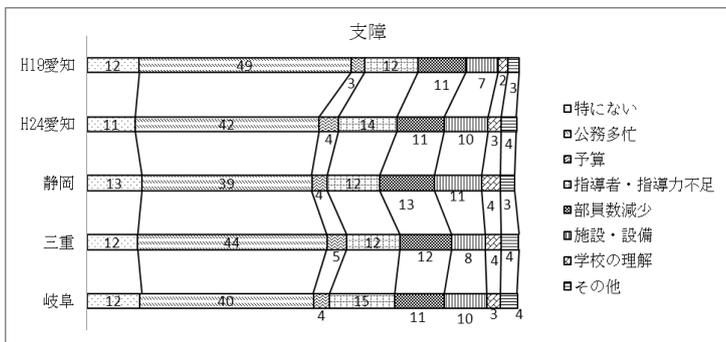
その解決方法の一つでもある各競技団体での講習会・研修会への参加に着目してみると、4県とも解決法の中で最も低い値を示して

いた。しかし、各競技団体・高体連などでは、頻りに講習会や研究会が行われている。また、競技によっては県全体・地区ごとなど独自の方法で競技力向上や指導者の育成のために研究会が開催されている。これ

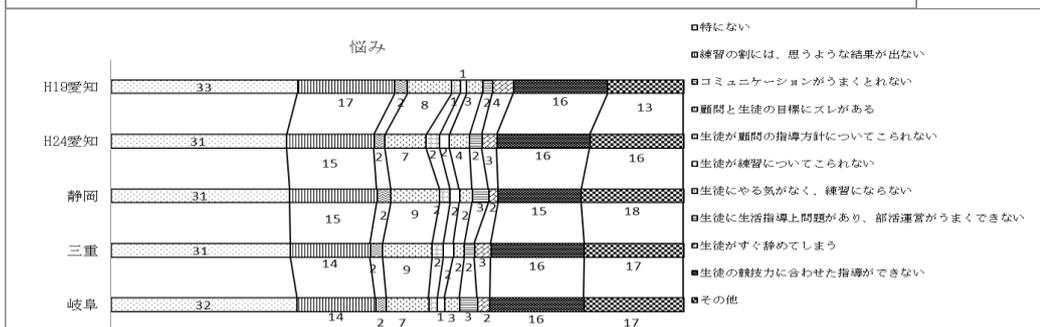
ら研修会への参加奨励には、積極的な広報による顧問への周知や参加しやすい日程等の調整が必要と考える。また、更なる強化や指導力不足の補填を理由に、外部コーチの必要性を訴えている顧問がたくさんいることが分かった。これは、指導力に関するアンケート質問 15 (④自信もないし指導もできていない) の回答とほぼ一致することから、相関関係があると推測される。さらに、地域スポーツとの関係性について、「移行すべき・移行した方がよい・連携が必要」と回答している顧問が 50~60%を占めている。これらから、指導に自信が持てず継続していくことに限界を感じている顧問の多くは、指導に関して外部との関係を模索していると推測される。しかし、「必要ない」「現状のままでよい」の意見も 20%程度あり、教育の一環である部活動と地域スポーツとの関係性については、今後深く論議すべき課題だと考えられる。

(6) 部活動に対する顧問の気持ち

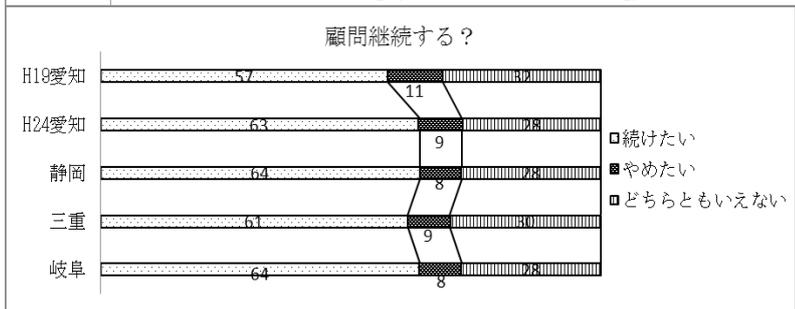
[質問 20 支障あり?、質問 21 負担あり?、質問 22 それはなぜ?、質問 30 悩みあり?、質問 23 顧問を続けたいか?]



約 6 割以上の顧問が部活を負担に感じていることが分かった。理由は様々であるが、一概に個人の理由ではないことがうかがえる。教科指導や分掌業務など基本的な校務を抱えながら、部活動を運営していくには、時間と労力と情熱が必要である。部活動が学校教育活動の一環であることが、新学習指導要領にも明記されたが、学校の実情に合わせた具体策(校務での枠組み・活動条件等)を

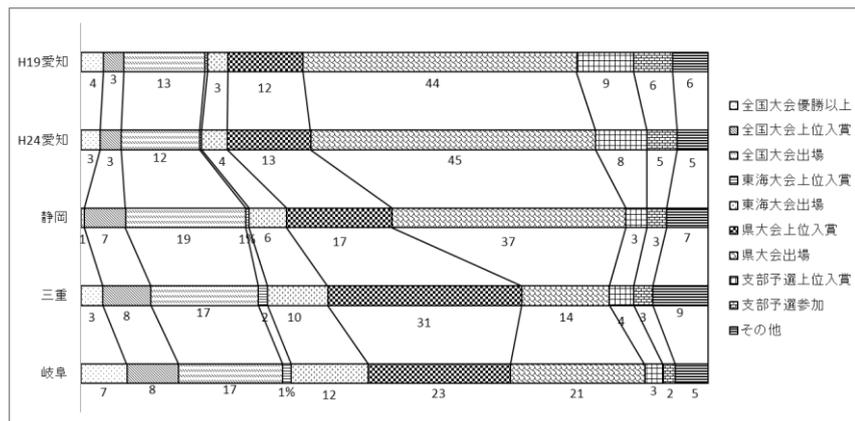


部活動が学校教育活動の一環であることが、新学習指導要領にも明記されたが、学校の実情に合わせた具体策(校務での枠組み・活動条件等)を



を検討し、活動を展開しなければ、顧問の負担は軽減されないと考えられる。さらに、約 9 割の顧問が今後も顧問を続けたいと答えているところに部活動顧問としてのやりがいや魅力、そして部活動の教育的意義を改めて確認できる。

(7) 各県における目標設定の違い [質問 14]



ここでは、顧問が部活動を運営する上でどのレベルに目標を設定しているかについて見ていきたい。

愛知県では約半数が県大会出場を目標に日々活動しているのに対し、他の3県は東海大会以上に目標を設定している割合が多い。これは生徒数、学校数等始め、県ごとに規模が違うため目標の設定の仕方にバラつきがみられると考えられる。また、

県によっては拠点校が存在、いわゆる強豪校の存在が目標設定（モチベーション）を大きく左右しているのではないかと考えられる。

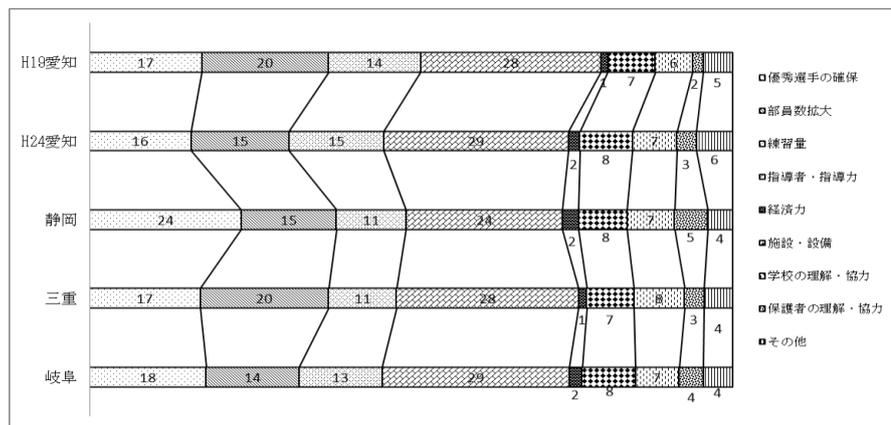
参考：各県からの考察コメント（抜粋）

【静岡県】 ◇静岡県は、全国大会以上をめざしている割合が愛知県に比べて10%以上も多かった。つまり、静岡県の方が全国大会へのチャンスが広がっていると考えられる指導者が多いと推測される。◇講習会や研修会に参加する割合は、愛知県より静岡県の方が多。講習会や研修会の機会が静岡県の方が多、あるいは指導者の参加が積極的である可能性がある。

【岐阜県】 ◇目標を東海大会以上に設定している顧問が愛知県より多い。◇悩みや不安を感じながらも、辞めたいという回答が少ないことに驚いた。◇地域スポーツクラブとの連携を考えている顧問の割合が多い。

【三重県】 ◇外部コーチの導入に関して、三重県の指導者は「必要ない」と回答する傾向がみられ、愛知県とはシステムや意識の違いがあるのではないかと推察される。◇三重県の顧問は、東海大会以上をめざす割合が愛知県より多い。チーム数の関係で、オープン参加で県大会に出場できる種目・大会が多いためか。◇地域スポーツクラブとの連携の必要性を感じている顧問も多い。◇年齢と指導歴とともに多くの悩みは解決していく傾向にある。

(8) 強化に必要なこと [質問 18]



部活動において指導者・指導力は競技力向上・選手育成のためになくなくてはならないものであると同時に、顧問には当然指導力が求められる。しかし、ここ5年で全体の顧問年齢が若年化した愛知県では、現在の指導力に不足や不安を感じている反面で、自らの指導力向上を真剣に考える顧問が多く存在することが推察される。

## 5 まとめと提言

本研究では、東海4県に枠を広げて「部活動に対する顧問の意識調査」を実施し、顧問が抱える課題を探ってみた。そこには顧問の意識の変化だけでなく以下にあげるような現状も浮き彫りになってきた。

- ① 熟練指導者の減少と顧問の若年化がもたらす指導への不安感の増加
- ② 指導力向上のための手立ての不足
- ③ 顧問を取り巻く環境の変化
- ④ 外部指導者の活用と地域スポーツとの連携

これら一つ一つの課題解決には、相当の時間といくつものプロセスが必要であろう。しかし今現在も、部活動指導に関して悩みや疑問、葛藤を抱えながらも、部活動の継続に意欲的に取り組む姿勢のある指導者が大勢おり、さらにそこには真摯に部活動に取り組む生徒達がいることを忘れてはならない。停滞するわけにはいかない。そこで、われわれ高体連としてできることとして、以下のような方策を提案する。

- ① 部活動顧問指導マニュアルの作成と活用
- ② 高体連が主催する指導者養成講習の開催、各競技団体への講習会開催の依頼
- ③ 運動部活動指導に関する現場研修（各学校毎の実施）の奨励
- ④ 行政への働きかけによる顧問の待遇改善やスポーツ環境の整備
- ⑤ 定年退職等により一線を退いた熟練指導者のノウハウの活用
- ⑥ 高校を核とした地域スポーツとの交流や地域人材活用の工夫

高体連として、今後ますます部活動を発展・継続させていくために、ここであげた課題に対する改善方策を考え、少しでも顧問が部活動指導に取り組みやすい環境を早急に作ること、さらに、研修や指導資料作成などを通して部活動指導のノウハウを伝える機会を今以上に提供していくことが、未来を担う若手指導者への一助となるであろう。

東京五輪 2020 の開催決定とともに、国内のスポーツ事情は刻々と変化していくに違いない。この波に乗りながら高校スポーツの発展を期した取り組みも加速し、“今なら出来る”ことから取り組んでいきたい。

今回、課題研究としての取り組みを通じて、反省点も多く浮き彫りとなった。今後の研究活動における改善点として整理しておきたい。

- ① 県内では、5年間の経年変化だけでなく、今後も継続的な基礎調査としてのアンケートを構築すること。
- ② 時代の変化に伴った選択回答肢を吟味し設定すること。
- ③ その他の選択肢に現れる少数意見を吸い上げ考察すること。